

第10回： 「安心して水辺で遊ぶ」ために

開催日： 2001年8月28日 / 会場： 「きゅりあん・イベントホール」

開催趣旨： 平成14年度の完全学校週5日制の実施に向けて、地域で子どもを育てるいろいろな試みが進められています。しかし人口密集地域、都市近郊においては、小さな自然があり水辺に近づけることができて、いろいろな制約があります。その中での活動展開を考える参考となるようセミナーを企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

○ 子供と水辺 — 川と子供達をつなぐ取り組み —（宮本善和／北川かっぱの会）

かっぱの会が取り組んでいる北川の環境保全活動について紹介する。子供達に川と関わる機会を増やし、川への関心を喚起させることが環境保全へと繋がると考え、子供と水辺の良好な関係を育てていくための今日的課題についても述べる。

○ 「遊ぶ水辺」の現状（土居利光／東京都環境局）

水と水辺の喪失など今日抱えている課題及び住民の意識の変化や意見について都民へのアンケート結果を基に解説する。さらに遊ぶ水辺の考え方や人間の行動などを考慮した水辺環境整備を紹介する。

○ 「遊ぶ水辺」の水質（大垣眞一郎／東大院・工）

水辺で遊ぶ場合の水質の考え方や遊ぶ種類により求められる水質について、人の健康との関わりを中心に解説する。また、水浴場や下水処理水再利用等の水質基準について、水辺の水質を考える参考として紹介する。

○ 人と微生物との共生 — 水辺で触れる微生物と人とのつき合い方 —（藤田紘一郎／東京医歯大院）

日本におけるアレルギー疾患の多発と現在の日本人の「超清潔志向」との関係性を、水辺で遊ぶ東南アジアの子供達の例や人と寄生虫との関係などから考察し、水辺で触れる微生物の重要性や微生物とのつき合い方について述べる。

○ 水辺の事故を防ぐ — 主催者・指導者の義務 —（小谷寛二／呉大・社会情報）

川で安全に安心して遊ぶための心構え及び川で遊ぶことの危険性を、法的責任やリスクマネジメント、さらに保険制度なども紹介しながら解説する。川は人間が制御できない自然であり、「危険を知って川に親しむ」社会システム構築の必要性を提示する。